様式Ｃ－１９

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成２４年　６月　５日現在

機関番号：13901
研究種目：基盤研究(C)
研究期間：2009～2011
課題番号：21530877
研究課題名（和文）
現代イスラーム高等教育機関の価値多元化社会への対応に関する国際比較研究
研究課題名（英文）The International Comparative Study of the Islamic Higher Institutions dealing with the Modern Multi-valued Societies
研究代表者
服部　美奈（HATTORI MINA）
名古屋大学・教育発達科学研究科・准教授
研究者番号：30298442

研究成果の概要（和文）：
研究成果を以下の４点に要約する。第一に、インドネシア・マレーシアのイスラーム高等教育機関では近年、イスラーム法学やイスラーム教育などのイスラーム諸学に、非宗教的な学問諸学である法学や教育学を統合する試みが進められている。さらに、イスラーム高等教育機関は様々な価値が混在する多元化社会に対応し、同時に非宗教系高等教育機関とは異なる人材の輩出、つまり宗教と非宗教といった二元的な学問類型を越えたイスラーム指導者を養成しようとしている。一方、マレーシアのイスラーム高等教育機関は 1980 年代からアラビア語と英語を教授用語とするマレーシア国際イスラーム大学の設立など、グローバル化に対応した教育改革を行い、国内外のイスラーム指導者を養成している。また各州における独自の取り組みも注目される。第二に、イスラーム高等教育機関における研究の進展は顕著である。多くのイスラーム高等教育機関には女性研究センターPusat Studi Wanita、イスラーム研究センターが設けられ、イスラーム諸学の研究が進められていると同時に、現代の諸問題に照らした教義の再解釈や社会科学の手法にもとづく実証研究が推進されている。この意味で、各国のイスラーム高等教育機関における研究の蓄積と発信が今後のイスラーム研究の重要なリソースとなりつつある。第三に、しかしながら異宗教間対話という観点からインドネシア・マレーシアのイスラーム高等教育機関をみると、イスラーム諸学と非イスラーム諸学との学問的統合あるいはより広い分野での就職・活動の機会を学生に提供しているという点において、価値多元化社会への対応は確実に進んでいるといえるものの、諸宗教間の対話を現在のイスラーム高等教育機関が積極的に提供していると結論づけることはできない。第四に、2011 年に開催した国際シンポジウムにおいて、各国（インドネシア、マレーシア、ブルネイ、オランダ、ヨルダン）のイスラーム高等教育機関に所属する研究者を招聘し、東南アジア、ヨーロッパ、中東地域におけるイスラーム高等教育機関の価値多元化社会への対応を直接議論することにより、国際的な研究交流を促進した。また、この国際シンポジウムの開催により、東南アジア地域のみならず、ムスリムがマイノリティとして居住するヨーロッパにおけるイスラーム高等教育機関の現状と課題を共有し、より普遍的な課題の検討と問題提起が可能となった。

研究成果の概要（英文）：
The four points as following are summarized as the research results of this study.
First, the integration between the Islamic academic fields and the non-Islamic academic fields is proceeding in Islamic higher institutions in Indonesia and Malaysia. Besides, the graduates who exceed the boundary of the dual academic field are active as the Islamic leaders in the important social sphere in those countries. Furthermore, the Islamic higher institutions such as Malaysia International Islamic University have executed the education reform to keep up with Globalization. Also, we can look the similar reform in each province such as Kelantan.
Second, the development of academic studies in those Islamic higher institutions is remarkable recently. Almost institutions have established the research center such as the Center of Islamic Studies, Women Study Center (Pusat Studi Wanita). These research centers carry out not only the traditional Islamic studies, but also the experimental studies based on the social science, and re-interpretation of religious teachings according to the present situation.

Third, the inter-dialogs reflecting contemporary social conditions such as the multi-religious societies, however, are not enough introduced into the curriculum in those Islamic higher institutions, even though some institutions provide the subjects such as comparative religion, the history of world religions.
Fourth, we invited the researchers who belong to the Islamic higher institutions from Indonesia, Malaysia, Brunei, Holland and Jordan, and held the international conference to discuss the situation and programs of own Islamic higher institutions toward multi-valued societies. By this conference, the new international cooperation and connection were produced.

交付決定額

（金額単位：円）

	直接経費	間接経費	合　計
2009 年度	1,100,000	330,000	1,430,000
2010 年度	1,900,000	570,000	2,470,000
2011 年度	500,000	150,000	650,000
総　計	3,500,000	1,050,000	4,550,000

研究分野：比較教育学
科研費の分科・細目：社会科学・教育学・教育社会学・比較教育学
キーワード：イスラーム、高等教育、価値多元化

１．研究開始当初の背景

本研究は、イスラーム高等教育機関の教育研究動向の分析から、イスラーム研究の今日的動向を考察するものである。日本におけるイスラーム研究はプロジェクトベース（たとえば人間文化研究機構プログラム「イスラーム地域研究(第１期:2006-2010)」など。現在、研究代表者は上智大学アジア文化研究所イスラーム地域研究拠点研究分担者）で活発化しつつある。しかしイスラーム高等教育に関する先行研究は非常に少なく、管見の限り、インドネシア・マレーシアのイスラーム高等教育機関に関する西野[1997,2001]、杉本[2002,2005a,2005b]らの研究の他、阿久津[2003]による中東地域の高等教育機関に関する研究があるのみである。特に本研究のテーマである多元化社会へのイスラーム高等教育の対応という観点からの国際比較研究は皆無である。

一方、ムスリム・マイノリティの存在が社会問題化している西欧諸国では、イスラーム教育機関がテロの温床と指摘されたこともあり、特に 9.11 事件以降、教育に焦点を当てたイスラーム研究が一時的に増加している[Hefner and Muhammad 2007; Lukens-Bull 2005 など]。また教育学分野では市民性教育や多文化教育の観点からムスリム児童生徒の問題が研究されるようになっている[Driel2004;Gereluk 2008 など]ものの、これらの研究の多くは初等中等教育段階に焦点が当てられている。カトリックと異なり、イスラームは世界のムスリムを統括する階層的組織を持たず、厳密な意味での聖職者も存在しない。イスラーム高等教育機関はオピニオンリーダーの育成という観点からも、多元化社会に向けた新たな思想形成という観点からも今日のムスリム世界においてきわめて重要な位置にあり、本研究ではイスラーム高等教育を対象とする必要があると考えた。

そのなかで研究代表者の観点に最も近い先行研究は、英国のイスラーム高等教育機関に所属する研究者による２冊の報告書である [El-Awaisi,A.F. & Malory 2006;Siddiqui,A. 2007]。この２冊は共に 9.11 事件および 2005 年ロンドン地下鉄爆破事件後に編纂されており、英国のイスラーム高等教育機関が、現代の多文化化する英国社会に適応した教育研究を行う転換期にあることを提言している。これを受けて英国政府は、英国におけるイスラーム研究の現状分析[HEFCE 2008a]、および西欧諸国のイスラーム研究・高等教育機関の国際比較に関する報告書[HEFCE 2008b]を作成し、イスラーム研究の発展を戦略的優先課題に位置づけ、大学間連携による新たなイスラーム研究所を設立している。

本研究は、この２つの先行研究を比較の分析枠組みに据え、研究代表者・分担者の専門地域であるインドネシア・マレーシア地域のイスラーム高等教育が向かう多宗教間・多元的価値の共存に向けての変革の方向性を探るものであり、従来の先行研究で明らかにされた西欧地域に加え、新たに東南アジア地域の知見を提供するものである。

２．研究の目的

本研究の目的は 9.11 事件以降、深刻化するイスラーム恐怖症(Islamophobia)に対し、イスラーム高等教育機関が、イスラーム学の伝統を維持する一方、多宗教間・多元的価値の共存を促進する役割を担うべく自己変革する現代的動向を明らかにすることにある。

本研究の独創的な点は、①9.11 後のイスラーム研究およびイスラーム高等教育機関の役割を、多宗教間・多元的価値の共存という今日的課題に焦点をあてて考察する点、②国際シンポジウムを開催し、各国の研究者が直接議論することにより、東南アジアと西欧におけるイスラーム高等教育機関の傾向と取り組みを①の観点から比較し、新たな課題の検討と問題提起を可能にする点、③9.11 事件後の世界状況に対して、イスラーム研究・イスラーム高等教育機関が果たすべき役割を明らかにし、研究成果が平和構築の一助になりうる点、④上記の諸観点を明らかにすることにより、イスラーム高等教育機関の積極的な役割を政策提言できる点にある。

３．研究の方法

(1)（現地調査）インドネシアとマレーシアのイスラーム高等教育機関に関する現地調査を行なう。インドネシアの調査対象地域は、中部ジャワ州、東部ジャワ州、西スマトラ州とし、選定したイスラーム高等教育機関を訪問し、資料収集すると同時に関係者へのインタビューを実施する。マレーシアの調査対象地域は、クアラルンプール、クランタン州とし、インドネシアと同様の調査を行なう。また両地域ともに宗教省、イスラーム高等教育関連部局を訪問し、資料収集を実施する。

(2)（国際シンポジウムの開催）イスラーム高等教育機関に関する国際シンポジウムを開催する。開催地は日本（名古屋大学）とする。シンポジウムには、インドネシア、マレーシアの研究者を招聘すると同時に、オランダ、中東地域からの研究者も招聘する。各国の研究者が、各国のイスラーム高等教育機関に関する報告を行ない情報交換すると同時に、イスラーム高等教育機関の現状を各国の研究者が直接議論することにより、東南アジアと西欧におけるイスラーム高等教育機関の傾向と取り組みを比較する。

(3)分析の枠組み(1)　イスラーム研究が設置されている学部・プログラムの歴史的推移と現状を分析する。前述した先行研究[El-Awaisi,A.F. & Malory 2006;Siddiqui,A. 2007]では、英国内にある 36 の高等教育機関（55 のイスラーム関連プログラム・研究所・大学）におかれたイスラーム研究プログラムが、主として「神学・宗教学」と「中東アフリカ地域研究」という２つの異なるディシプリンに分かれて設置されていることを指摘する。本研究ではインドネシア・マレーシアのイスラーム高等教育機関をこの枠組みで分類し、西欧諸国との比較を行う。

(4)分析の枠組み(2)イスラーム研究のテーマとアプローチを座標軸にマッピングする。縦軸は「テーマ」、横軸は「アプローチ」である。そして、縦軸の両極には「伝統的」と「現代的」、横軸の両極には「神学的」と「社会科学的」を置く。特に第三象限から第一象限への研究のシフトは、本研究のテーマである多宗教間対話・価値多元社会への対応を意味すると考えられる。

４．研究成果

各年度の研究概要は以下の通りである。

平成２１年度は、主としてイスラーム高等教育機関の分析枠組みの検討、およびインドネシアにおいて海外調査を実施した。前者に関しては、宗教省・国家教育省の各種資料から、インドネシア・マレーシアにおけるイスラーム高等教育機関の歴史的発展、各高等教育機関におけるイスラーム関連学部・プログラムの歴史的推移と現状、さらにイスラーム研究機関の研究動向を分析した。後者に関しては、インドネシア東部ジャワ州および西スマトラ州の国立イスラーム大学、国立イスラーム宗教単科大学、私立イスラーム大学を中心に現地調査を行った。

平成 22 年度は、前年度の成果をもとに世界比較教育学会（2010 年 6 月、イスタンブール）および日本比較教育学会（2010 年 6 月）で報告を行った。また、マレーシア(2010 年 9 月)およびインドネシア(2011 年 2 月)において海外調査を実施した。マレーシアではクランタン州、インドネシアでは中部ジャワ州を中心にイスラーム高等教育機関に関する現地調査を行った。これらの成果をふまえ、マレーシアからヤコブ・ビン・ユソフ(Yaacob bin Yusoff)氏(クランタン州スルタン・イスマイル国際イスラーム・カレッジ)を招聘し、国際セミナー（第１回）を開催した(2011 年 3 月)。

平成 23 年度は、前年度の成果をもとに日本比較教育学会(2011 年 6 月、早稲田大学)で、マレーシアのイスラーム高等教育機関に関する報告を行なった。成果の一部は、「マレーシア（クランタン州）におけるイスラーム教育の発展に関する一考察」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学)』58 巻 2 号（2012）等に掲載した。さらに科研の最終年度として、国際シンポジウム（第２回）”International Seminar on Reforms in Islamic Higher Education in Meeting Contemporary Challenges”(2011 年 7 月、名古屋大学)を開催した。同シンポジウムには、インドネシア（スナンカリジャガ国立イスラーム大学、シャリフ・ヒダヤトゥッラー国立イスラーム大学、ワリソンゴ国立宗教大学、

パラマディナ大学、SEBI イスラーム経済学部)、マレーシア（マレーシア国際イスラーム大学)、ブルネイ（スリ・ブガワン宗教教師ユニバーシティ・カレッジ、ブルネイ・ダルッサラーム大学)、オランダ（ロッテルダム・イスラーム大学)、ヨルダン（ヤルムーク大学）から各地域の専門家 13 名が来日し報告を行った。この成果は英語版の書籍として現在、編集しており今年度もしくは来年度に出版する予定である。

これらの研究活動から得られた研究成果を以下の 4 点に要約する。

第一に、インドネシア・マレーシアのイスラーム高等教育機関に関して、特に近年インドネシアでは国立イスラーム宗教大学 Institut Agama Islam Negeri から国立イスラーム大学 Universitas Islam Negeri への再編に伴い、イスラーム法学やイスラーム教育などのイスラーム諸学に、非宗教的な学問諸学である法学や教育学を統合する試みが進められている。もともと国立イスラーム宗教大学 IAIN はその前身である国立イスラーム宗教カレッジ PTAIN が 1951 年に開設され、1961 年に PTAIN と宗教公務アカデミーADIA の統合により創設されたものである。さらに近年の改革により、イスラーム高等教育機関は様々な価値が混在する多元化社会に対応し、同時に非宗教系高等教育機関とは異なる人材の輩出、つまり宗教と非宗教といった二元的な学問類型を越えたイスラーム指導者を養成しようとしている。一方、マレーシアのイスラーム高等教育機関は 1980 年代からアラビア語と英語を教授用語とするマレーシア国際イスラーム大学の設立など、グローバル化に対応した教育改革を行い、国内外のイスラーム指導者を養成している。また各州における独自の取り組みも注目される。たとえばクランタン州のスルタン・イスマイル・プトラ国際イスラーム・カレッジはアラビア語を教授用語とし、ヨルダン、エジプト、モロッコ、インドネシアなど海外のイスラーム高等教育機関へ留学生を送り出すと同時に、カンボジア、タイ、インドネシア、シンガポールからの留学生を受け入れている。また、近年イスラーム銀行の発展が著しいことから特にイスラーム法学学士プログラムおよびイスラーム金融ディプロマプログラムの学生を銀行に輩出している。

第二に、イスラーム高等教育機関における研究の進展は顕著である。多くのイスラーム高等教育機関には女性研究センターPusat Studi Wanita、イスラーム研究センターが設けられ、イスラーム神学、イスラーム法、イスラーム教育、イスラーム文学をはじめとするイスラーム諸学の研究が進められていると同時に、現代の諸問題に照らした教義の再解釈や社会科学の手法にもとづく実証研究が推進されている。この意味で、各国のイスラーム高等教育機関における研究の蓄積と発信が今後のイスラーム研究の重要なリソースとなりつつある。

第三に、しかしながら異宗教間対話という観点からインドネシア・マレーシアのイスラーム高等教育機関をみると、管見の限り、学生は比較宗教学や各宗教の宗教史を科目として履修する機会は設けられているものの、その時間数は限られている。つまり、イスラーム諸学と非イスラーム諸学との学問的統合あるいはより広い分野での就職・活動の機会を学生に提供しているという点において、価値多元化社会への対応は確実に進んでいるといえるものの、諸宗教間の対話を現在のイスラーム高等教育機関が積極的に提供していると結論づけることはできない。

第四に、2011 年に開催した国際シンポジウムにおいて、各国（インドネシア、マレーシア、ブルネイ、オランダ、ヨルダン）のイスラーム高等教育機関に所属する研究者を招聘し、東南アジア、ヨーロッパ、中東地域におけるイスラーム高等教育機関の価値多元化社会への対応を直接議論することにより、国際的な研究交流を促進した。また、この国際シンポジウムの開催により、東南アジア地域のみならず、ムスリムがマイノリティとして居住するヨーロッパにおけるイスラーム高等教育機関の現状と課題を共有し、より普遍的な課題の検討と問題提起が可能となった。

最後に、イスラーム高等教育機関はオピニオンリーダーの育成という観点からも、価値多元化社会に向けた新たな思想形成という観点からも、今日のイスラーム世界においてきわめて重要な位置にある。そのため、イスラーム高等教育機関がイスラーム学の伝統を維持する一方、多元的価値・多宗教間の共存を促進する役割を担うべく自己変革する現代的動向について今後も継続的な研究が必要である。

５．主な発表論文等
（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕（計 6 件）

服部美奈「イスラーム世界からみた歴史的転換点としての 2011 年－グローバル社会における人間の尊厳と教育」『グローバル教育』、査読無、第 14 号、2012, pp.2-16.

服部美奈・西野節男・小林忠資「マレーシア（クランタン州）におけるイスラーム教育の発展に関する一考察」『名古屋大学大学院教育発達科学研究科紀要（教育科学)』、査読無、58 巻 2 号, 2012, pp.95-117.

服部美奈「リソースとしての海外教育研究交流と比較教育学教育の多様性」『比較教育学研究』、査読無、第 44 号、2012, pp.183-198.

西野節男「国際教育開発と比較教育学研究の可能性」『比較教育学研究』、査読無、第 42 号、2011, pp.124-139.

服部美奈「高等教育の一大市場を形成する底力，先を見据えた人材育成戦略－インドネシアの高等教育戦略」（アジアの高等教育事情ダイナミック・アジア 9)『リクルート　カレッジマネジメント』査読無（165，2010 年 11－12 月号），pp.42-45

服部美奈「インドネシアにおける国民教育の歴史的展開－スハルトの「開発」体制から「改革（Reformasi）」体制への移行－」東洋大学アジア地域研究センター『学術フロンティア報告書』(2009 年度)、査読無、2010 年 3 月，pp.244-260.

〔学会発表〕（計 14　件）

Hattori Mina, *Tradition of Kitab Learning at Pondok Pesantren in Indonesia -Focus on its Learning Style*, NIHU (National Institutes for the Humanities) Program: Islamic Area Studies, SIAS (Center for Islamic Studies at Sophia University) Workshop on the Comparative Study of Southeast Asian Kitabs, Sophia University, Oct.23, 2011.

服部美奈「イスラーム世界から見たグローバル社会と教育」第 19 回日本グローバル教育学会全国研究大会（基調講演），愛知教育大学，2011 年 9 月 3 日

Nishino Setsuo, *Islamisation of Higher Education: A Comparative Analysis of Malaysia and Indonesia*, International Seminar: Reforms in Islamic Higher Education in Meeting Contemporary Challenges (Saturday 30th – Sunday 31st July 2011)(Session 6 The Challenges of Cultural Diversity & Minority Muslims), 30st July 2011, Nagoya University.

Hattori Mina, *The Functions of Islamic Higher Education toward Multi-cultural societies: A Comparative Analysis of the United Kingdom, and the Netherlands*, International Seminar: Reforms in Islamic Higher Education in Meeting Contemporary Challenges (Saturday 30th – Sunday 31st July 2011)(Session 6 The Challenges of Cultural Diversity & Minority Muslims), 31st July 2011, Nagoya University.

服部美奈・西野節男「マレー世界のイスラーム高等教育改革－知の調和化と制度的接合の諸形態－」日本比較教育学会第 4 7 回大会，早稲田大学，2011 年 6 月 26 日

服部美奈「声を媒体とする習得－インドネシアのプサントレンにおけるキタブ学習」人間文化研究機構 NIHU プログラム・イスラーム地域研究（上智大学イスラーム研究センター SIAS グループ 2 研究会）「東南アジア・イスラームの展開」，上智大学，2010 年 11 月 14 日

西野節男・服部美奈「価値多元化社会におけるイスラーム高等教育機関－インドネシアとマレーシア」日本比較教育学会第 46 回大会，神戸大学六甲台キャンパス，2010 年 6 月 27 日

服部美奈「ジャウィからみるマレー世界と知の伝播」日本比較教育学会第 46 回大会ラウンドテーブルⅥ「マレー世界を旅する（2）－東南アジア・比較教育研究の可能性－」，神戸大学六甲台キャンパス，2010 年 6 月 27 日

Hattori Mina, Nishino Setsuo, *Function of Islamic Higher Education toward Multi-cultural society: Comparative Analysis of Indonesia, Malaysia, United Kingdom, and Netherlands*, (Thematic Group 2 - “Comparative Education: Rethinking Theory and Method”), 14th World Congress of Comparative Education Society, Istanbul, Turkey, 14 June 2010.

服部美奈「流動性の高い社会における知の伝達と定着」東南アジア学会 2010 年度春季大会（パネル 3「学術研究と人道支援：2009 年西スマトラ地震で壊れたもの・つくられるもの」）コメンテーター，愛知大学，2010 年 6 月 6 日

服部美奈「東南アジア・イスラーム教育研究の展開と可能性」南山大学アジア・太平洋研究センター＆上智大学アジア文化研究所イスラーム地域研究拠点グループ 2「東南アジア・イスラームの展開」共同開催セミナー「東南アジア・イスラーム研究の新しい展開へ向けて」，南山大学，2010 年 2 月 22 日

服部美奈「現代ミナンカバウ社会におけるイスラームとアダット」東南アジア学会緊急研究集会「支援の現場と研究をつなぐ　2009 年西スマトラ地震におけるジェンダー、コミュニティ、情報」報告者，東京大学，2009 年 11 月 25 日

Hattori Mina,"Dimasukkannya Mata Pelajaran Pendidikan Jasmani dan Kesehatan Pada Sekolah Islam Wanita: Berdasarkan Jejak Pendiri Diniyyah Putri Rahmah el Yunusiyyah", International Seminar Toyo University and Diponegoro University (5-6 August 2009), Workshop (3) Afternoon, 6 August 2009 "Islamic Education Development in Malay World", Pasca Sarjana Building Diponegoro University.

服部美奈「研究方法としての「教育生態学」」日本比較教育学会第 45 回大会，ラウンドテーブル「マレー世界を旅する－自己の定位と教育事象の記述をめぐって－」，東京学芸大学，2009 年 6 月 28 日（企画：中田有紀，中矢礼美，西野節男，服部美奈）

〔図書〕（計 7　件）
石川照子・高橋裕子編『家族と教育（ジェンダー史叢書 2)』明石書店，2011 年（服部美奈　第 5 章，pp.188-205）

鴨川明子編『アジアを学ぶ－海外調査研究の手法』勁草書房，2011 年（服部美奈「第 12 章　ムスリム女性を生きる」，pp.177-189）

越後哲治・田中亨胤・中島千恵編『保育・教育を考える－保育者論から教育論へ』あいり出版，2011 年 4 月（服部美奈　第 2 部 5 章第 4 節 pp.136-140, p.150.）

江原武一・南部広孝編著『現代教育改革論－世界の動向と日本のゆくえ－』（放送大学大学院文化科学研究科用教材）、放送大学出版会、2011 年 3 月（服部美奈　第 3 章「教育システムの変容」pp.40-52、服部美奈　第 11 章「ジェンダーと教育」pp.160-173、服部美奈第 12 章「国際教育協力の課題」pp.174-189.）

東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター編『アジア社会の発展と文化変容』東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター，2010 年 3 月（服部美奈「インドネシアにおける地域間教育格差と地方分権化」pp.217-244.）

西野節男編著『東南アジア・マレー世界のイスラーム教育－マレーシアとインドネシアの比較』東洋大学アジア文化研究所・アジア地域研究センター，2010 年 3 月（服部美奈 2－3.「ラフマ・エル・ユヌシヤー(1900－1969)：女子イスラーム教育の改革者」pp.81-108，服部美奈 5-1.「女子イスラーム学校への保健・体育学の導入：ディニア・プトリ創設者ラフマ・エル・ユヌシヤーの足跡から」pp.207-224，Hattori Mina 2-3.「Rahmah el Yunusiyyah (1900-1969): Pembaharu Pendidikan Islam Perempuan」pp.355-386，Hattori Mina 5-1.「Masuknya Mata Pelajaran Pendidikan Jasmani dan Kesehatan pada Sekolah Islam Perempuan: Berdasarkan Jejak Pendiri Diniyyah Puteri, Rahmah el Yunusiyyah」pp.495-515.）

Ramlee Mustapha, Norzaini Azman, Abdul Razak Ahmad (eds.), *Education for Diverse Learners*, Universiti Putra Malaysia Press, 2009.10. (Hattori Mina Chapter 15, Muslim Womens Education, pp.189-203.) (Chapter contribution)

６．研究組織
(1)研究代表者
服部　美奈（HATTORI MINA）
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科・准教授
研究者番号：30298442

(2)研究分担者
西野　節男（NISHINO SETSUO）
名古屋大学・大学院教育発達科学研究科教授
研究者番号：10172678

(3)連携研究者
なし